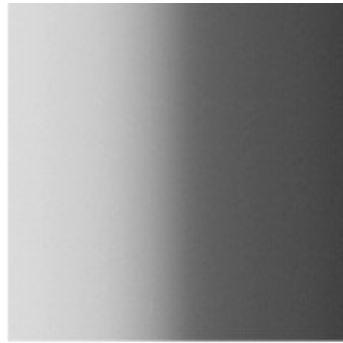


新潟開港 150 周年記念事業



水と土の 芸術祭

Water and Land
Niigata Art Festival 2018

実施計画(案)

平成 30 年 2 月 2 日
水と土の芸術祭 2018 実行委員会



【実施計画（案）改訂履歴】

初稿(2017/11/15)からの改訂

改定日	頁	変更内容
2017/11/30	10～18	・「アートプロジェクト」内、「作家及び作品数」、「作品一覧」を一部修正
2018/2/2	3	・「開催概要」内、「後援」を一部修正
	6	・「市民プロジェクト」内、「募集スケジュール」を一部修正
	7	・「こどもプロジェクト」内、「実施内容」を一部修正
	9～18	・「アートプロジェクト」内、「会場」、「作家及び作品数」、「作品一覧」を一部修正
	23	・「にいがた JIMAN」内、「伝統芸能等のイベント」、「まちあるき」の内容を追記
	28～29	・「輸送・交通」内、「実施概要」の内容を追記
	32	・「広報」内、「広報スケジュール」を一部修正
	34	・「パスポート・単館チケットの販売」、「ガイドブックの販売」を追記
	39	・「スケジュール」を一部修正
	40	・「収支計画」を一部修正

目次

I	開催趣旨	1
II	開催概要	3
III	事業内容	5
1	市民プロジェクト	5
2	こどもプロジェクト	7
3	アートプロジェクト	9
4	シンポジウム	22
5	にいがたJIMAN	23
6	その他主催事業	24
7	連携事業	25
8	事業全体像	26
IV	空間構成と輸送・交通	27
V	広報・誘客	30
VI	観覧料等	34
VII	実施・運営体制	35
VIII	スケジュール	39
IX	収支計画	40

I 開催趣旨

「水と土の芸術祭」は2009年にスタートしました。その後、本芸術祭は3年に1回のトリエンナーレ方式で開催され、2018年にその第4回展を迎えます。こうした隔年性の展覧会は今日、日本はもとより世界各地で見られますが、新潟市が開催する本展覧会は、「水」と「土」という地球誕生以来の根源的物質であり生命の誕生をうながし育んできた「四元素」の中心的物質を展覧会の表題に掲げています。

このことは新潟の地勢の成り立ちに深く関係しています。ユーラシア大陸から離れ、南北に弓形に連なる日本列島は、当初平坦な土地でした。しかし地球をおおうプレートの活動による陸の隆起や火山活動によって山脈が生まれ、四季折々の季節感や美しさを携えた列島へと変貌してきました。新潟の地勢は、そうした長い地球の歴史の中でもまだ山脈が生まれる以前の産声を上げたばかりの地勢を表しているようにも感じられます。

そこは太古以来、まさに「水」と「土」がせめぎ合う境界領域でもありました。本州の中心部から発する信濃川、阿賀野川という2つの大河が日本海に面する河口で合流し、流域に肥沃な平野を形成するとともに、日本海からの強風によって生まれた70キロメートルにもおよぶ砂丘列が越後平野を盾のように守っています。砂丘列、多くの潟や低湿地帯、高低差のある川、川の流れをコントロールする分水や堰、これらは新潟の自然のダイナミズムと人間の英知や労苦を記憶遺産のように現在に伝えています。

自然やそれと共存する多くの対策の歴史ばかりではありません。交易や文化の面でも新潟は多様な歴史を積み重ねてきました。北前船などによる江戸期からの海運の拠点として発展し、明治初期に開港5港の1つとして開設された新潟港は、2019年に開港150周年を迎えます。良港をもつことによる「みなとまち」新潟は、人や文物の交流をうながし、郷土の繁栄にも大きく寄与してまいりました。一地域であることを超えて行われるこうした交易は、自然のスケール感とともに文学にも関係しているように思えます。松尾芭蕉の俳句、北原白秋の「砂山」、あるいは坂口安吾の砂丘にあって思索した小説など、新潟で詠まれ書かれた俳句や童謡、文学には遥か彼方を遠望し、そこに思いを馳せるようなスケールの大きさを感じさせます。

新潟はひと口に豊かです。米をはじめとする農作物や魚介類など、その多様性には驚かされます。しかし、その豊かさを時として私たちは忘れてしまいがちなのではないのでしょうか。かつて腰まで浸かって刈り取られていた、決しておいしいとは言えなかったという米作を全国屈指のおいしい米どころに変えていったのは、治水をはじめとする先人たちのたゆまぬ労苦や努力によって築かれたものです。また労働だけではなく、ここでは食文化をはじめ共同体意識を高める祭事や過酷な労働を癒す芸能なども生み出されました。

本芸術祭は「私たちはどこから来て、どこへ行くのか～新潟の水と土から、過去と現在(いま)を見つめ、未来を考える～」という基本理念に基づき、「水」や「土」に象徴される特有の地勢によって生み出され育まれた新潟の歴史や生活、文化などの独自性を、現代のアートや市民が自発的に取り組む様々なプロジェクトなどを通じて着目し認識してもらうきっかけになることを目的の1つにしています。それは新潟の独自性に気づき、市民にそれが根づくことで郷土に対する愛着や新潟の未来を創造していく新しいパワーやエネルギーを生み出すことに通じていくでしょう。

今回の芸術祭は、先述の基本理念に立ちつつ「メガ・ブリッジ—つなぐ新潟、日本に世界に—」というコンセプトを設け、3つのブリッジ(架け橋)を描きます。

1つ目のブリッジは、新潟と日本の各地や世界を結ぶ架け橋です。本芸術祭では「水」と「土」という毎日欠かすことのできない日常的であり、かつ生命を育む根源的物質がテーマになっています。それは新潟で行われる芸術祭であるにもかかわらず、広く日本や世界が今日抱えている地球規模の問題にリンクしています。また新潟は2019年に開港150周年、翌年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、日本各地のみならず、北東アジアの文化交流拠点都市として、多くの国や地域と積極的に文化交流を結ぶ環境が備わっています。本芸術祭はこうした国際的な交流を推進する絶好の機会ともなるでしょう。

2つ目のブリッジは、市民を結ぶ架け橋です。ともすれば希薄になりがちな現代の人と人とのつながりがこうしたプロジェクトをきっかけに深まり、これまでになかった新しい出会いや場を生み、それによって人々の関係は活性化し新鮮でパワフルなヴィジョンを生み出すことに発展していく期待が生まれます。アートという、時に非日常的な祝祭性は、都市に新しい生命の息吹を吹き込むことにも通じるでしょう。

3つ目のブリッジは、アートと自然、都市、社会などのすべての対象に張り渡される架け橋です。これらは今日の先端的アートの主流をなしています。それらの先端的なアートに特徴的なことは単に作品を鑑賞するだけでなく、作品に接し、あるいは作品を通じて身体的、感性的な経験を積むことで新しい感性や視点を育むという表現性をもっていることです。また、こうした体験、協働、あるいはワークショップ型の表現は、今日もっともクローズアップされているテーマであり、従来のアートの存在理由に課題を投げかけている「アール・ブリュット」にも深く関係しています。障がいのある方々の表現は、時に健常者の表現を凌ぐ魅力ある作品を生み出し、従来の芸術の垣根を超えた表現世界を切り開く可能性を示唆しています。それは芸術個々の表現ジャンルよりももっとベーシックな社会における人間存在の証というフィールドを改めて認識させる重要な観点に進展していくとも言え換えられるでしょう。

新潟市の自然や地勢的特徴に育まれた日本の他地域や世界のどこにもない歴史や文化。本芸術祭は、その魅力を国の内外で活躍するアーティストと、その制作、発表に協働する多くの市民、地域住民の自発的、積極的な活動をはじめとする多彩なアプローチで引き出し、新潟市のこれまでになかった新しい魅力を含めてアピールしていきたいと思えます。

水と土の芸術祭 2018 総合ディレクター 谷 新

II 開催概要

1 名称

水と土の芸術祭 2018 (みずとつちのげいじゅつさい にーぜろいちはち)

2 基本理念

私たちはどこから来て、どこへ行くのか

～ 新潟の水と土から、過去と現在(いま)を見つめ、未来を考える ～

3 目的

- 「水と土の文化創造都市」の推進
 - ・シビックプライド*1の醸成と市民力の更なる発展
 - ・新潟らしい魅力の発信(食・農・おどり・海・川・潟・砂丘・港 など)
 - ・産業や教育・福祉など他分野への創造性の浸透・波及
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた新潟市の文化プログラム*2の主要事業として、世界へ新潟市をアピールするとともに、北東アジア文化交流拠点都市につなげる。
- 新潟開港 150 周年の主要事業に位置付け、「みなとまち」としての魅力向上につなげる。

4 主催

水と土の芸術祭 2018 実行委員会

- 実行委員長 篠田 昭 (新潟市長)
- 副実行委員長 平岩 史行 (水と土の芸術祭市民サポーターズ代表)
今井 長司 (新潟県農業協同組合中央会会長)
福田 勝之 (新潟商工会議所会頭)
- 参与 大熊 孝 (新潟大学名誉教授/潟環境研究所所長)
- アドバイザー 小川 弘幸 (イベントプロデューサー/文化現場代表)
- 総合ディレクター 谷 新 (美術評論家)
- アート・ディレクター 塩田 純一 (新潟市美術館館長)
- 市民プロジェクト・ディレクター/こどもプロジェクト・ディレクター
藤 浩志 (秋田公立美術大学副学長/美術家)
- マネージャー 杉浦 幹男 (公益財団法人アーツカウンシル新潟プログラムディレクター)
- チーフキュレーター 長縄 宣 (元発電所美術館学芸員)

5 後援

経済産業省、駐新潟大韓民国総領事館、在新潟ロシア連邦総領事館、
中華人民共和国駐新潟総領事館

総務省(申請中)

6 会期

2018 年(平成 30 年)7 月 14 日(土)～10 月 8 日(月・祝) 計 87 日間

*1 「シビックプライド」→市民の誇り。

*2 「文化プログラム」→オリンピック憲章では、開催地に複数の文化イベントの実施を義務付けており、これを「オリンピック文化プログラム」と呼ぶ。東京 2020 組織委員会及び国では、リオ 2016 閉幕から東京 2020 閉幕までの 4 年間、全国各地で様々な文化イベントが行われるよう進めている。

7 会 場

市内全域

- メイン会場:「万代島旧水揚場跡地」
- サテライト会場:「新潟市芸術創造村・国際青少年センター(旧二葉中学校)」
- その他、市内全域で各プロジェクトを展開する。

8 事 業

- 市民プロジェクト(市民自らが企画・運営するイベントやプロジェクト等)
- こどもプロジェクト(次代を担う子ども達の創造性を育む事業)
- アートプロジェクト(アーティスト等を招へいし、新潟の地勢的な成り立ちや暮らし文化に深く根差した芸術性の高い作品を制作・展示)
- シンポジウム(芸術祭の取り組みと連動したトークイベント等)
- にいがた JIMAN(「食」や「農」・「伝統芸能」など、新潟市の誇る豊かな文化を広くPR)

9 予 算

270,000,000 円

Ⅲ 事業内容

1 市民プロジェクト

市民自らが企画・運営するもので、イベントのみならず、まちづくりや地域活性化に繋がるプロジェクトを支援する。これにより、市民や地域が主体となって関わることができる、参加性の高い芸術祭とする。

- (1) 対象事業(下記のア～エのいずれにも該当するもの)
 - ア 2018年7月14日(土)～2018年10月8日(月・祝)に、新潟市内で開催し、地域住民が参画するイベント等で、下記の(a)から(e)のいずれかに該当するもの。ただし、この期間より前に実施するもので、特に芸術祭開催の機運醸成等に繋がると認められる場合は、この限りではない。
 - (a) 「水と土」の歴史・文化などを紹介し、「水と土の新潟市」の文化振興に資するもの
 - (b) 「水と土」に関わるアートを活用して地域の賑わいを創出するもの
 - (c) 新潟らしい地域資源(「潟」、「食」、「おどり」等)の魅力を発信するもの
 - (d) 「水と土」に関するテーマで、東日本大震災をはじめとする激甚災害の被災者・避難者等を支援するもの(新潟市外で行うものも可)
 - (e) 区内の市民プロジェクトの広報・連携の核となる拠点を設け、市民プロジェクト間やアートプロジェクトとの連携を図る体制を整え、アートを活用して地域の課題に取り組むもの【以下、(e)を地域拠点プロジェクトと呼ぶ】
 - イ 採択決定を受け、開催日時、場所、内容を2018年4月2日(月)までに確定できるものであること。
 - ウ 不特定多数の集客、参加が見込まれるもので、非営利であること。
(特定の住民の方のみが参加するもの、または販売等の収益事業を主目的としたものは不可)
 - エ 政治、宗教などに関する活動や、公の秩序または善良の風俗に反するものでないこと。
- (2) 採択件数
110件程度(うち、地域拠点プロジェクトは10件程度)
- (3) 助成額
事業にかかる助成対象経費の5分の4で、1事業につき上限50万円
※ただし、地域拠点プロジェクトに該当する事業については、助成率及び上限額を超えて助成する場合があるため、応相談とする。
- (4) 実施地域
市内全域(東日本大震災をはじめとする激甚災害の被災者・避難者等を支援するものについては、この限りではない)
- (5) 実施主体
市民グループ、地域、団体、学校、事業所・企業 など
- (6) 採択方法
一般公募により募集し、実行委員会で採択する。

(7) 募集スケジュール

日程	内容
2017年10月6日(金)	募集開始
12月25日(月)	募集締切
12月28日(木)～ 2018年2月4日(日)	審査
2月9日(金)まで	採択通知発送

(8) 採択要件

- ア 芸術祭の趣旨を理解し、独創性のある魅力的なイベントなどであるもの
- イ 実施主体が自主的に企画立案し、実施するもの(ただし、地域拠点プロジェクトについて作家の斡旋はこの限りではない)
- ウ 芸術祭に関する情報発信や、地域の魅力の再発見、再構築及びその発信に寄与するもの

(9) 助成対象経費等

事業に直接要するもので、必要最低限の経費を対象とする。ただし次の経費を除く。

- ア 事務所等を維持管理するための経費
- イ 食糧費(健康管理上、必要なものなど実行委員会が認めるものは除く)
- ウ 実施団体の構成員に対する謝礼金やそれに準じるもの
- エ 単価3万円以上の物品(当該物品がないと事業を実施できない場合は応相談)
- オ その他、事業に直接関係ないと実行委員会が認める経費

(10) 実施プロジェクト一覧(採択後に記載)



臼井アートプロジェクト 2016



Nadegata Instant Party 礎窯 2015「ONE MORE CUP STORY」

2 こどもプロジェクト

次代を担うこども達の創造性を育むプログラムとして、芸術の面白さ、楽しさ、すばらしさを体感し満喫するとともに、地域の歴史・文化への理解を深める機会を提供する。

(1) 実施体制

多くの人に参加したくなる魅力的なワークショップ等の企画・実施をアーティスト及び教育関係者とともに進める。また、学生など広く市民が参画するプロジェクトを実施し、こども達に参加しやすい環境を整えるとともに、会場やワークショップ等で使用する素材・機器等についても安心・安全に配慮する。

学校を中心に展開するワークショップでは、教育職員から選任されたコーディネーターが、招へいアーティストとともに企画を行い実施する。また、こども達が芸術祭を身近に感じられるよう、各区役所と連携したプログラムを実施する。

(2) 実施内容

ア ワークショップ

(a) アーティストによるワークショップ

- 概要 コーディネーター(市内の小・中学校教員)とともに、多彩なワークショップを夏休みや週末を中心に実施することでこども達の参加性を高める。
※コーディネーターとして選任された教育職員が所属する学校へ、アーティスト出張型のワークショップによる研修授業などを実施。

内容	日付	プログラム名(会場)	講師
ア ー ト	調整中	調整中	井川 惺亮
	調整中	調整中	土谷 享(KOSUGE1-16)
	調整中	調整中	ハヤシ ヤスヒコ(パラモデル)
	調整中	調整中	友政 麻理子
音 楽	調整中	調整中	ISOPP
	調整中	調整中	野村 誠

(b) 各区と連携したワークショップ

- 概要 市内全区でそれぞれ地域の特色を生かした様々なプログラムを展開し、多くのこども達が芸術祭を身近に感じられるようにする。
- 内容 体験型ワークショップ など
- 会場 各区

区	日付	連携事業名(予定)
北区	調整中	北区メガ盛り満福！ワイルド炊飯・自然創作体験プロジェクト
東区	調整中	寺山公園・子育て交流施設(い～てらす)キッズワークショップ
中央区	調整中	NIIGATA オフィス・アート・ストリート ～Miniature Port～
江南区	調整中	わく灯籠で夕涼み
秋葉区	調整中	Akiha あそび 2018 の夏
南区	調整中	新潟市指定無形文化財「しろね絞り」体験
西区	調整中	西区アートキャラバン
西蒲区	調整中	味噌づくりとケンサ焼き体験

イ ワークシート

芸術祭の作品を子ども達に分かりやすく、楽しみながら鑑賞するためのツールとして、発達段階に応じた子ども向けのワークシートを作成・配布する。

ウ キッズ・バスツアー

芸術祭の作品を鑑賞したり、地域の特色に触れたりできる、子ども向け体験ツアーを夏休み期間中に実施する。

エ みずつち給食

地元食材や郷土料理を基に、創造的にアレンジした料理をメニューとして開発し、2018年7月の学校給食として提供する。

[メニュー開発者:佐藤 智香子(料理教室「waiori kitchen」主宰、野菜ソムリエ pro.)]

オ ワークショップ事例集

本事業の記録だけでなく、事例紹介として、教育関係者をはじめ広く各方面に周知し、活用される事例集を作成する。

(3) プレイイベント

西区アートキャラバン

- 概要 新潟大学と地域住民、西区役所が協働で行うアートイベント。子どもプロジェクトのプレイイベントとしてワークショップを開催し、芸術祭のPRと機運醸成につなげる。
- 内容 流木アートワークショップ、ミニ演劇の実施など
- 開催 2017年10月21日(土)～2018年1月31日(水)
- 会場 黒崎市民会館、坂井輪地区公民館、西新潟市民会館、内野まちづくりセンター



水と土の芸術祭 2015 講師:荒井良二
「カタガタ、マキマキ」～旅の絵巻ものがたり～



水と土の芸術祭 2015 講師:井川惺亮
生き返る命の輝きをアートする(行方の第1歩)



水と土の芸術祭 2015 講師:真下恵
Noism子どものためのからだワークショップ 撮影:中村脩

3 アートプロジェクト

新潟の地勢的な成り立ちや、暮らし文化に深く根差した芸術性の高いアートプロジェクトを実施する。

アートプロジェクトは、市民や地域が様々な関わるができるものとし、また、多様な人が楽しみ、大きな集客力が期待できるものとする。造形物の制作だけでなく、ワークショップなども実施し、過去の芸術祭で制作・設置した作品についても、活用を図るものとする。

また、国際芸術祭として、海外作家の作品展示を行うとともに、福祉やアール・ブリュット^{*3}の視点を入れた展開や、芸術祭終了後も楽しめる新たな継続展示作品の設置を検討する。

加えて、より多くの方々に作品を理解していただけるよう、解説手法を工夫する。

(1) 会場

会場は、地域の特性を活かし、交通の利便性に配慮した場所で、より多くの人が作品に接することができる場所とする。

ア メイン会場：港と関連の深い「万代島旧水揚場跡地」

質、量ともに充実したアート作品を展示することで、芸術祭終了後も市民が文化・芸術に親しみ、集える、賑わいの場の創出に繋げる。

イ サテライト会場：砂丘列を象徴する場所にある「新潟市芸術創造村・国際青少年センター（旧二葉中学校）」

○ 芸術創造村では、アーティスト・イン・レジデンス^{*4}を実施しながら、創作活動の拠点とする。また、市民向けのワークショップも開催する。

○ 国際青少年センターの一部にアート作品を展示する。

ウ その他会場：「新潟市美術館」「NSG美術館」「旧齋藤家別邸」「北方文化博物館新潟分館」「砂丘館」「安吾風の館」「天寿園」

○ 継続展示作品の会場については(4)のとおり。

(2) 作家・作品の選定方法

作家選定は、総合ディレクター及びアート・ディレクターが行う。

作家・作品の選定にあたっては、以下のコンセプトに基づいて行う。

【コンセプト】

新潟の自然の成り立ちは「水」と「土」に象徴されます。それは「地水火風」という古くからの「四元素」を思わせます。そこは豊かでバラエティーに富んだ「生命」の誕生をうながし育みまし。今回のアートプロジェクトは、こうした「四元素」を素材やテーマにし、生命感あふれる表現や人間のいとなみの歴史などを表現した作品によって構成されます。

また、かつて北前船の最大の寄港地であった新潟は、日本海を囲むアジア諸国をつなぐ日本の玄関口として貿易や文化交流で栄えてきました。この「四元素とそれによって育まれる生命」・「環日本海」という2つの大きな柱を基本コンセプトに、今日いっそう注目されるようになった、専門的な美術の枠を超えた自由な表現である「アール・ブリュット」などへの取り組みを含め、日本の各地域、さらには日本海から世界に向かって、メガ・ブリッジ(大きな架け橋)をかけていくという考え方に立っています。

^{*3} 「アール・ブリュット」→「(生)の芸術」とも訳され、既存の芸術教育を受けていない人たちが独自に作り出した作品の総称。

^{*4} 「アーティスト・イン・レジデンス」→各種の芸術制作を行うために招かれたアーティストが、一定期間滞在しながら作品を制作すること。

(3) 制作

市民や地域、学校などとの協働で取り組む。プロジェクトによっては企業、事業所、団体等との共催で行う。また、アート制作のスポンサーを募る。

(4) 作家及び作品数

38 作家・38 作品程度 ※詳細は(5)のとおり。

新規	展示会場	内 訳
30 作家・ 30 作品程度	メイン会場: 万代島旧水揚場跡地 (中央区)	8 作家・8 作品程度
	サテライト会場: 新潟市芸術創造村・ 国際青少年センター (中央区)	7 作家・7 作品程度
	その他会場: 「新潟市美術館」「NSG美術館」「旧齋藤家別邸」「北方文化博物館新潟分館」「砂丘館」「安吾風の館」「天寿園」(中央区)	15 作家・15 作品程度

※1 作家につき、複数出品する可能性あり。


継 続	展示会場	作品名
8 作家・8 作品	旧栗ノ木排水機場 (東区)	「栗ノ木排水機場は近代農業土木の原点となった。」 作家: 磯辺 行久
	信濃川やすらぎ堤 (中央区)	「THE HEART OF TREES」 作家: ジャウマ・プレンサ
	西海岸公園 (中央区)	「おひるねハウス」 作家: 南川 祐輝
	関分記念公園 (中央区)	「心園の渡り」 作家: 管 懐賓
	清五郎潟 (中央区)	「BOAT HOUSE DOCK YARD[船の家 造船所]」 作家: 日比野 克彦
	新津美術館・前庭 (秋葉区)	「水の声-Water Whisper」 作家: 高田 洋一
	上堰潟公園 (西蒲区)	「海拔ゼロ」 作家: 土屋 公雄 APT 田原 唯之+木村 恒介
	角田浜 (西蒲区)	「ヒエログリフ」 作家: 浅葉 克己


(5) 作品一覧(予定)


※新規作品のイメージは、2018年1月末時点のもの、もしくは過去作品であり、今後変更となる場合がある。


○メイン会場: 万代島旧水揚場跡地


(五十音順)


メー1	メイン会場(万代島旧水揚場跡地)	
作家名	伊藤 公象(いとう こうしょう)	イメージ 
ジャンル	陶芸	
内容	新潟の秋葉山の土を混入した褐色の陶土を用いる新作は、約 6,000 ピースもの<多軟面体>・<起土>シリーズを、床に無数に設置することで、地球創生の大地を想わせる。陶業 50 年になる現代陶芸家・伊藤公象氏による集大成。	

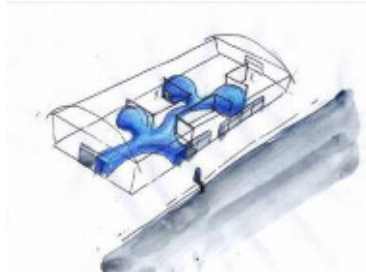
メー2	メイン会場(万代島旧水揚場跡地)	
作家名	岩崎 貴宏(いわさき たかひろ)	イメージ 
ジャンル	造形	
内容	歴史的建築物を題材に、地上の実像と水面に反射する虚像として一体化させ、精巧な木製模型で再現する<リフレクション・モデル>で注目される。2017年ヴェネチア・ヴィエンナーレ日本代表。今回は、新潟を意識したリフレクション・モデルの新作を構想中。	

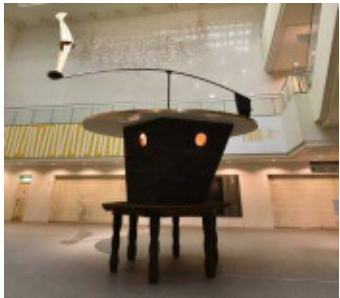
メー3	メイン会場(万代島旧水揚場跡地)	
作家名	遠藤 利克(えんどう としかつ)	イメージ 
ジャンル	彫刻	
内容	水や火を使った原初的な素材と要素が、神話的な物語を喚起させる独特な彫刻で知られる彫刻家。今回は、新潟の地下に眠る天然ガスや石油から着想した地上へと噴出する「火」をイメージさせる新作を構想している。	


メー4	メイン会場(万代島旧水揚場跡地)	
作家名	大西 康明(おおにし やすあき)	イメージ 
ジャンル	造形	
内容	空洞や余白を体積というテーマで視覚化させる彫刻家。柔らかなポリエチレンシートを、まるで「たなびく雲」のように天井に設置する。新たに熱で縮れさせる手法を取り入れた新作は、微風で揺れながら「風や空」を意識させる。	


メー5 メイン会場(万代島旧水揚場跡地)		
作家名	塩田 千春(しおた ちはる)	イメージ
ジャンル	造形	
内容	降り注ぐ「雨」のイメージで、無数の白い糸に吊り下げられるのは、天空へ昇天するイメージの無数の舟のシルエット。<どこへ向かって>と題されたこの作品は、「生と死」をテーマに作品化する塩田千春の最新日本未発表作。	


メー6 メイン会場(万代島旧水揚場跡地)		
作家名	ナウイン・ラワンチャイクン (Navin Rawanchaikul) ※タイ	イメージ
ジャンル	絵画	
内容	人々との交流やインタビューを通して、地域の歴史や人の記憶を「絵画」として蘇らせるコンセプトを重視するタイのアーティスト。今回はメイン会場に、新潟の漁業風景や漁師の人々と交流から生まれた絵画とインタビュー映像作品を展示する予定。	


メー7 メイン会場(万代島旧水揚場跡地)		
作家名	松井 紫朗(まつい しろろう)	イメージ
ジャンル	造形	
内容	チューブ状の青い布による作品が、会場内を繋ぎ、チューブの外部と内部の両方を来場者が歩くことで、視覚的な内と外の「見る／見られる」関係を体感させる。染色体のような形状は「生命の起源」をイメージさせる。	

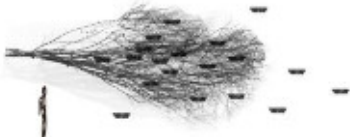
メー8 メイン会場(万代島旧水揚場跡地)		
作家名	森北 伸(もりきた しん)	イメージ
ジャンル	彫刻	
内容	〈人と家〉にまつわるテーマを持ちながら、展示場所と空間に深く関わり、普遍的でシンプルな形を彫刻や絵画として作品化する作家。今回海の見えるメイン会場の広場に設置される家型の作品は、プリミティブな人の住まう「家」を象徴的に表現する。	


サー1	サテライト会場(新潟市芸術創造村・国際青少年センター)	
作家名	伊藤 遠平(いとう えんぺい)	イメージ 
ジャンル	絵画・造形	
内容	「海の物語」をテーマに擬人化した小さな妖精のオブジェや、物語性のある絵画を展示。滞在しながら制作を行うレジデンスや、子供向けワークショップも行うほか、生命の根源に触れるような立体・平面の両方の表現でみせる。	


サー2	サテライト会場(新潟市芸術創造村・国際青少年センター)	
作家名	丑久保 健一(うしくぼ けんいち)	イメージ 
ジャンル	彫刻	
内容	凹んだように彫り込まれた木彫のボールを 108 個ずつ、海と陸それぞれに放ち、丸い地球上に広がるという壮大なコンセプトで発表した<1・0・∞のボール>。故人の木彫家・丑久保健一の世界を作品と写真で振り返る。	


サー3	サテライト会場(新潟市芸術創造村・国際青少年センター)	
作家名	占部 史人(うらべ ふみと)	イメージ 
ジャンル	造形	
内容	愛知県立芸術大学を卒業後、茫洋とした優しさを秘めた作風で、日常の風景、車や舟などを題材に、オブジェ・絵画を制作している。レジデンスの作家として、旧二葉中の教室のイメージを活かした秘密基地のような空間展示を予定。	


サー4	サテライト会場(新潟市芸術創造村・国際青少年センター)	
作家名	角地 智史(かくち さとし)	イメージ 
ジャンル	写真	
内容	新潟大学工学部福祉人間工学科卒。在学中から障がい者を支援する活動に関わり、人と人との関係性をテーマに写真表現を行う写真家。市内の障がい者支援施設で、障がい者と健常者とが交流できるワークショップなどを実施。成果物を作るのではなく、施設の中で行われる行為自体を作品とする予定。	


サー5 サテライト会場(新潟市芸術創造村・国際青少年センター)		
作家名	阪田 清子(さかた きよこ)	イメージ 
ジャンル	造形	
内容	海辺に漂着した流木や海水から作った塩の結晶などの素材を用いて、自然と人間の共生をテーマに、詩的な作品を作る造形作家。新作プランでは、立ち枯れの木々と流木を組んだ小舟を並べ、生命体を育む器の象徴としての舟が集う港のイメージを作品化する。	

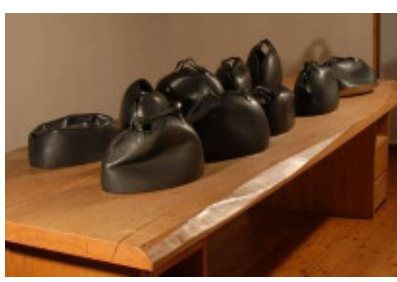
サー6 サテライト会場(新潟市芸術創造村・国際青少年センター)		
作家名	高見沢 美穂(たかみざわ みほ)	イメージ 
ジャンル	絵画・陶芸	
内容	会場の食堂壁面に、森の木々や魚の群れを陶板のレリーフで表現するほか、「家」を連想させる蓋付の小箱を、まるでミニチュアの街並みが出現したかのようにカラフルに並べる「KOBAKO」シリーズを出品する予定。	

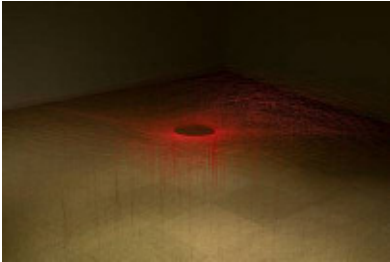
サー7 サテライト会場(新潟市芸術創造村・国際青少年センター)		
作家名	富井 大裕(とみい もとひろ)	イメージ 
ジャンル	彫刻	
内容	見慣れた日常品に最小限の手を加え、複数を積み重ねたり並べたりすることで、思ってもみない色と形を備えた彫刻として提示する、新潟市出身の美術家。日常の中に潜むアート感覚を作品を通じて体験してもらおう。	


他ー1	その他会場	
作家名	青木 千絵(あおき ちえ)	イメージ 
ジャンル	彫刻(漆)	
内容	「人体」をテーマに空間に溶け出すような人体像を「漆」を使った彫刻として発表している。身体的フォルムの美しさや神秘さを、深い漆黒の色によって表現。今回は和の空間に合わせ、日本の伝統技法である「漆」の良さを再認識する作品。	


他ー2	その他会場	
作家名	青木 野枝(あおき のえ)	イメージ 
ジャンル	彫刻	
内容	風の吹き抜ける軽やかな鉄の彫刻を作り続ける女性の金属彫刻家。鉄板からバーナーで溶断される細いパーツは、熱で溶けたエッジが空間へと溶け出すイメージ。今回は、円形のパーツを連結した塔状の作品を屋外に設置し、大地から湧き出る水のエネルギーを作品化する予定。	


他ー3	その他会場	
作家名	荒井 経(あらい けい)	イメージ 
ジャンル	絵画	
内容	現在、東京芸術大学大学院保存修復日本画准教授であり、べろ藍(プルジャンブルー)を使った日本画を描く作家。水平線を想わせる風景は、抽象絵画のようにシンプルでありながら想像を掻き立てる。	


他ー4	その他会場	
作家名	伊藤 知香(いとう ちか)	イメージ 
ジャンル	陶芸	
内容	実寸大の靴や靴・帽子といった日常品のフォルムを陶芸で表現する作家。床や壁にちりばめられた黒陶による作品たちは、見慣れた生活空間のような雰囲気を感じながら、黒一色に統一されることで、影のような人の気配も感じさせる。	


他ー5	その他会場	
作家名	池内 晶子(いけうち あきこ)	イメージ 
ジャンル	造形(絹糸)	
内容	赤や白といったシンプルな色彩の絹糸を無数に空間に張り巡らしながら、静寂の内に神秘的な空間を創り上げる造形作家。絹糸を結び合わせて宙づりにする造形は、息をのむ繊細さを秘める。今回は「和の空間」で、新潟産の絹を素材とする新作も構想している。	


他ー6	その他会場	
作家名	折元 立身(おりもと たつみ)	イメージ 
ジャンル	写真	
内容	アルツハイマー症の母の介護自体を作品化する「アート・ママ」シリーズで一躍脚光を浴びた。アジアを含む世界の都市を放浪、スニーカーを履いた自身の足を街景と共に写した写真シリーズ「ステップ・イン」を展示する。	


他ー7	その他会場	
作家名	梶井 照陰(かじい しょういん)	イメージ 
ジャンル	写真	
内容	佐渡在住の僧侶であり、激しい波飛沫の一瞬を造形的にレンズでとらえた写真集<NAMI>で一躍脚光を浴びた写真家。強風によって荒れ狂う佐渡の海を撮影した、強烈なインパクトで迫る新作で発表予定。さどの島銀河芸術祭 2016 実行委員長。	


他ー8	その他会場	
作家名	セルゲイ・ヴァセンキン(Sergey Vasenkin)※ロシア	イメージ 
ジャンル	絵画	
内容	ロシアの画家で、「海の波」などの海景を中心に油彩画を手掛けている。冬の日本海にも共通する「激しく岸辺に打ち寄せる波」の風景画は圧巻。	


他ー9		その他会場
作家名	潘 逸舟(ハン・イシュ Han Ishu)※中国	イメージ 
ジャンル	映像・写真	
内容	大きな社会システムの制約によって縛られる個人のアイデンティティーを、身体表現を通じ作品化する作家。今回、人間の身体の中にある水と、風景の環境の中にある水が循環するイメージで、身体と風景の関係性を可視化する物語を映像作品で見せる。	


他ー10		その他会場
作家名	古川 知泉(ふるかわ ちせん)	イメージ 
ジャンル	造形・いけばな	
内容	阿賀野市(旧水原町)出身の龍生派のいけばな作家。今回は、無数の白い糸を樹の枝から垂直に下げ、木々の狭間に静寂な細い雨が降りそそぐような<レイン・トゥリー>を展示する。	

他ー11		その他会場
作家名	星野 暁(ほしの さとる)	イメージ 
ジャンル	陶芸	
内容	見附市出身の現代陶芸家。前衛陶芸の開拓者「走泥社」のメンバーであり、一貫して素材である「土」そのものの造形にこだわり、制作を続けている。今回、手の触覚を残した黒陶の塊を、柱状あるいは壁に渦巻く状態で設置し、土による樹木や森をイメージさせる作品を展示予定。	

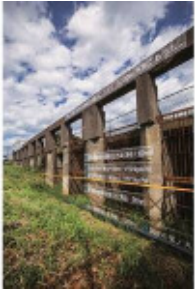
他ー12		その他会場
作家名	間島 領一(まじま りょういち)	イメージ 
ジャンル	造形	
内容	「美術」を大衆の中に引きずり込む視点をもって、「食」をテーマに、刺激のかつユーモラスにオリジナルティあふれる作品を展開している。今回は食の「新潟」を意識しつつ、世界に通用するグローバルな作品を展示する予定。	


他ー13	その他会場	
作家名	山内 光枝(やまうち てるえ)	イメージ 
ジャンル	映像・造形	
内容	海女の凜とした姿に魅力を感じた作家は、体当たりで海に生きるひとびとと共に潜り生活することで、埋もれつつある人間の生き物としての根源的な記憶や営みを探り、その生きた風景を作品化した。表現手段は、映像・写真・ドローイング・インスタレーションなど多岐にわたる。	


他ー14	その他会場	
作家名	山本 糾(やまもと ただす)	イメージ 
ジャンル	写真	
内容	「光・水・電気」という一貫したテーマで、自然と人工の世界を日常風景から切り離し、モノクロームの写真で表現する写真家。芸術祭では、新潟を水害から守る「信濃川の治水」に関する水路や水門などを撮影し、展示する予定。	


他ー15	その他会場	
作家名	柳 根澤 (ユ・グンテク Yoo,Geun-Taek)※韓国	イメージ 
ジャンル	絵画	
内容	韓国紙に墨や胡粉、水彩やテンペラを用い、東洋と西洋絵画の枠を超え、独特な世界観を描く作家。室内や風景の中に増殖していく植物など、平凡と異常、生成と消滅、実在と幻影といった対立を魔術的に描いている。	


○継続展示作品


継一1	鳥屋野潟(旧栗ノ木排水機場)	(東区)	
作家名	磯辺 行久(いそべ ゆきひさ)		<p>イメージ</p>  <p>撮影：中村脩</p>
作品名	栗ノ木排水機場は近代農業土木の原点となった。		
内容	かつては一面の湿地が広がっていた旧亀田郷。1948年に竣工した栗ノ木排水機場は、湿原を田園地帯に変貌させた。潟との関わりの深い遺構の一部を掘り出し、その歴史と水位の変化を体感させる作品。		


継一2	信濃川やすらぎ堤	(中央区)	
作家名	ジャウマ・プレンサ(Jaume Plensa)※スペイン		<p>イメージ</p>  <p>撮影：中村脩</p>
作品名	THE HEART OF TREES		
内容	信濃川に向かう、樹木を抱えて座る2人の人物像。時間が経つ中で、樹は育ち像と一体化していっくだろう。水に向かい、過去と現在を繋いで未来へと向かう、人類的願望を感じさせる。		


継一3	西海岸公園	(中央区)	
作家名	南川 祐輝(みなみかわ ゆうき)		<p>イメージ</p>  <p>撮影：中村脩</p>
作品名	おひるねハウス		
内容	日本海に臨む小さな建築物。座ったり、寝ころんだりしながら、海の風と共に、水と土の風景を五感で感じ、未来を考える。		

継一4	関分記念公園	(中央区)	
作家名	管 懷賓 (グアン・ファイビン Guan Huai Bin)※中国		<p>イメージ</p>  <p>撮影：中村脩</p>
作品名	心園の渡り		
内容	日本海の彼方に向く、海や境を越えて繋がる心の交流を象徴する造形物。海と陸(水と土)を渡る、心の交流の現在と過去を見つめ未来を考えるきっかけをつくる作品。		

継一5	清五郎潟	(中央区)	
作家名	日比野 克彦(ひびの かつひこ)		イメージ
作品名	BOAT HOUSE DOCK YARD [船の家 造船所]		
内容	新潟のボートをハウスに改装。新潟市と同様の低湿地の街、オランダ・アムステルダムのように。潟のほとりのボートハウスたち。「潟を考える拠点」になって、多くの市民が集い、活動し、交流が生まれることを願う。それは新しい「潟」の活力源になっていこう。		
			撮影：中村脩

継一6	新津美術館・前庭	(秋葉区)	
作家名	高田 洋一(たかだ よういち)		イメージ
作品名	水の声—Water Whisper		
内容	作品の内部空間には、頂上に蓄えた水越しの光が射し込み、風にそよぐ「木漏れ日」を映し出す。頂上の水は、一滴ずつ「水琴窟」に落ち「水の声」を響かせる。光と音で「水」を体感する作品。		
			撮影：中村脩

継一7	上堰潟	(西蒲区)	
作家名	土屋 公雄 APT(=アートプロジェクトチーム) 田原 唯之+木村 恒介 <small>(つちやきみお えー・びー・ていー たはら・ただゆき+きむら・こうすけ)</small>		イメージ
作品名	海拔ゼロ		
内容	海拔ゼロメートル地帯の、かつて腰まで水に浸かりながら農作業を行っていた時の水面の視界を実感する作品。潟地の暮らしの歴史を体感し、未来を考える。		
			撮影：中村脩

継一8	角田浜	(西蒲区)	
作家名	浅葉 克己(あさば かつみ)		イメージ
作品名	ヒエログリフ		
内容	角田浜の海に臨む小高い台地に立つ、古代エジプトの象形文字が刻まれた真っ黒い石碑群。どこまでも続く日本海の水の景観の中で、過去・現在そして未来まで、人類文明の辿る時間に思いを馳せる作品。		
			撮影：中村脩

4 シンポジウム

芸術祭の取り組みと連動したテーマを設定し、オリンピック文化プログラムや新潟開港 150 周年などに関連させた「水と土」に相応しい、新潟らしい魅力(食・農・おどり・海・川・潟・砂丘・港 など)の発信と地域活性化につながるトークイベントを開催する。

なお、シンポジウムは市民プロジェクト、こどもプロジェクト、アートプロジェクトとも連携し、相互に増幅させるものとし、会期中に開催するほか、芸術祭の機運醸成を図るためプレシンポジウムを開催する。

(1) テーマ

「自然との共生」を大きなテーマとし、芸術祭の取り組みと連動したシンポジウム等を行う。

(2) シンポジウム(会期前 2 回、会期中 2 回 計 4 回)

ア 第 1 回プレシンポジウム

- タイトル 「潟と人との未来へのメッセージ」
- 概要 福島潟をはじめとして、地域の人々に守られている潟(湖沼)がいくつもある。基調講演の実施及び潟の自然を活かした学習に取り組んでいる子ども達からの発表などを通じて、新潟市の宝である「潟」をはじめとする豊かな自然環境について再認識し、「自然との共生」について理解を深める機会とする。
- 開催 2017 年 10 月 14 日(土) 午後 1 時 30 分～午後 4 時
- 会場 新潟市北区文化会館
- 出演 第 1 部 基調講演「さかなクンのお魚教室～自然環境を大切にしよう～」
講師 さかなクン (新潟おさかな大使／
国立大学法人東京海洋大学名誉博士・客員准教授)
- 第 2 部 潟に関する活動報告
司会 遠藤 麻里 氏 (フリーアナウンサー)

イ 第 2 回プレシンポジウム

- タイトル 「現代アートの行方 ～同時代のアート、そして、未来のアートの存在意義～」
- 概要 現代の“アート”の現状と課題、そして“アートプロジェクト”の功罪について議論し、ポストモダン以降の日本文化としての現代アートの価値と存在意義について考え、未来に向けた方向性を探る。また、市民に向けては、“現代アート”の楽しみ方を提示する。
- 開催 2018 年 2 月 8 日(木) 午後 6 時～午後 8 時
- 会場 りゅーとぴあ劇場
- 出演 パネリスト
逢坂 恵理子 氏 (横浜美術館館長／
ヨコハマトリエンナーレ 2017 コ・ディレクター)
谷 新 氏 (水と土の芸術祭 2018 総合ディレクター)
藤 浩志 氏 (秋田公立美術大学 副学長、教授／
水と土の芸術祭 2018 市民プロジェクト・ディレクター
” こどもプロジェクト・ディレクター)
- 山口 晃 氏 (現代美術家)
- 山内 朋樹 氏 (京都教育大学講師)

モデレーター

原 久子 氏（大阪電気通信大学デジタルゲーム学科 教授
大学院デジタルアート・アニメーション学専攻 教授）

ウ 第1回シンポジウム

- 開催 2018年7月下旬

エ 第2回シンポジウム

- 開催 2018年9月上旬

(3) トークイベント(会期前 2回、会期中 3回 計5回)

ア 第1回プレイベント

- タイトル 「惑星の光と声、新潟の水と土」
- 概要 新潟の風景写真と新潟の音等の映像と音声を交えたトークイベント
- 開催 2017年8月20日(日) 午後2時～午後3時30分
- 会場 新潟市美術館 講堂
- 出演 石川 直樹 氏 (写真家)
森永 泰弘 氏 (サウンドデザイナー)

イ 第2回プレイベント

- タイトル 「江南区の砂丘の地理と歴史～砂は崩れ、また山となる～」
- 概要 砂崩や砂山といった、ユニークな地名の由来や、砂丘列の地理的背景や亀田郷の歴史等に関する講演会。
- 開催 2017年11月23日(木・祝) 午後1時30分～午後3時30分
- 会場 江南区文化会館 多目的ルーム
- 出演 小林 隆幸 氏
(新潟市歴史博物館 学芸担当次長兼学芸課長・学芸員)

ウ 会期中のトークイベント

参加アーティストを招へいたトークイベントを3回開催予定。



第1回プレイベント
「惑星の光と声、新潟の水と土」

5 にいがた JIMAN

芸術祭の機会を活かして、国内外の来場者が水と土によってもたらされた最大の宝物である「食」や「農」、「伝統芸能」、「おどり」など、新潟ならではの体験をすることを通じて、新潟市の誇る豊かな文化を広く効果的にPRする。

来場者の満足度を向上させるとともに、地域の活性化や、地域経済の発展につながるよう、多くの経済団体・地元業者・市民等の参加を求める。

(1) 「食」や「農」の魅力発信

ア 新潟の食材を利用した「オリジナルメニュー」を提供する。

イ 料理を「食べる」だけでなく、農産品等の販売・収穫体験等、様々な角度から新潟の「食」と「農」の魅力を発信する。

ウ 食のイベントを不定期に開催し、「食」と「農」の魅力を発信するとともに、期間中の会場の盛り上げにつなげる。

(2) 伝統芸能等のイベント

ア 新潟の伝統芸能や和を感じる芸能演目などを発表するイベントを実施する。

○概要 新潟市の伝統芸能や和を感じる芸能演目などのステージイベント及びワークショップを実施(一部有料イベントあり)

○開催 芸術祭会期中の土・日・祝日(調整中)

○会場 万代島旧水揚場跡地、新潟市民芸術文化会館 ほか

イ 新潟市民の芸能団体等によるパフォーマンスやアーティストと市民によるワークショップと公演を実施する。(一部有料イベントあり)

(a) 市民パフォーマンス

○概要 伝統芸能、ダンスなどジャンルを問わず、新潟市内で活動する団体によるステージイベントを実施

(b) アートパフォーマンス

	期日(予定)	内容	アーティスト	会場
1	2018年7月14日(土)【ワークショップ】 ・15日(日)【演奏会】	市民100名が自慢の音が出るものを持ち寄り、作家の出すコマンドに合わせて即興演奏を行うオーケストラ公演を開催。併せて関連ワークショップも実施予定。	大友 良英	万代島旧水揚場跡地
2	2018年8月1日(水)～4日(土)【ワークショップ】 2018年8月5日(日)【公演】	演劇ワークショップを通じて、参加者ひとりひとりから語られた新潟での日常や水と土にまつわる記憶を作家がひとつの物語を作り、演劇という形で発表。	藤田 貴大 (マームとジプシー)	未定

ウ 市内の他のイベントとも連携し、芸術祭の盛り上げにつなげる。

(3) まちあるき

ア まちあるきイベント

メイン会場とサテライト会場を結ぶエリア周辺の「水と土」や「みなとまち文化」の歴史や文化に触れる「まちあるき」を実施する。

回	会期	コース(案)	ガイド
第1回	2018年7月21日(土)	未定	路地連新潟
第2回	2018年8月18日(土)	未定	
第3回	2018年9月15日(土)	未定	

イ おもてなしまちあるき

新潟駅とメイン会場間を新潟の文化を楽しく学びながら移動できるまちあるきを実施

回	会期	コース(案)	ガイド
全日	2018年7月14日(土) ～10月8日(月・祝)	新潟駅 ⇒ メイン会場	新潟シティガイド

※メイン会場休館日とまちあるきイベント実施日は除く(予約制)

(4) オリジナルグッズ

オリジナルグッズの開発・選定を行い、来場者の満足度をより一層高めるとともに、芸術祭を印象深いものにしていただく。

(5) ショップ

オリジナルグッズや、参加アーティストの関連商品、書籍等を販売する。

6 その他主催事業

(1) 式典等

オープニング、クロージングなどのイベントを実施する。

- 内覧会 2018年7月13日(金) メイン会場・サテライト会場 ほか
- 前夜祭 " 会場未定
- オープニングイベント 2018年7月14日(土) メイン会場
- クロージングイベント 2018年10月8日(月・祝) メイン会場 ほか

(2) スタンプラリーの実施・スタンプ台の設置

各作品の展示場所及び市内の「水と土」の歴史・文化を象徴するスポットにスタンプ台を設置し、作品観賞に併せて楽しめるスタンプラリーを実施する。



水と土の芸術祭 2018 スタンプラリーシート

7 連携事業

(1) 市内連携の取り組み

市内にある美術館・博物館等の数多くの文化施設のほか、市民団体、商店街、農業団体、事業所・企業と連携し、芸術祭全体の盛り上げを図る。関連の企画展や公演、イベントを開催していただき、芸術祭ウェブサイトやチラシ等による広報の連携を図り、一体的な情報発信を行う。

ア 他のイベントとの連携

新潟市及び他団体主催イベントなどとの広報連携

- 関連イベントのチラシ・ポスターへのロゴマークの掲載
- 水と土の文化創造都市ホームページでの関連イベント情報発信
- 関連イベント会場へのPRブースの設置 など

イ 文化施設や店舗等との連携

水と土の芸術祭会期中に、特典やサービスの提供

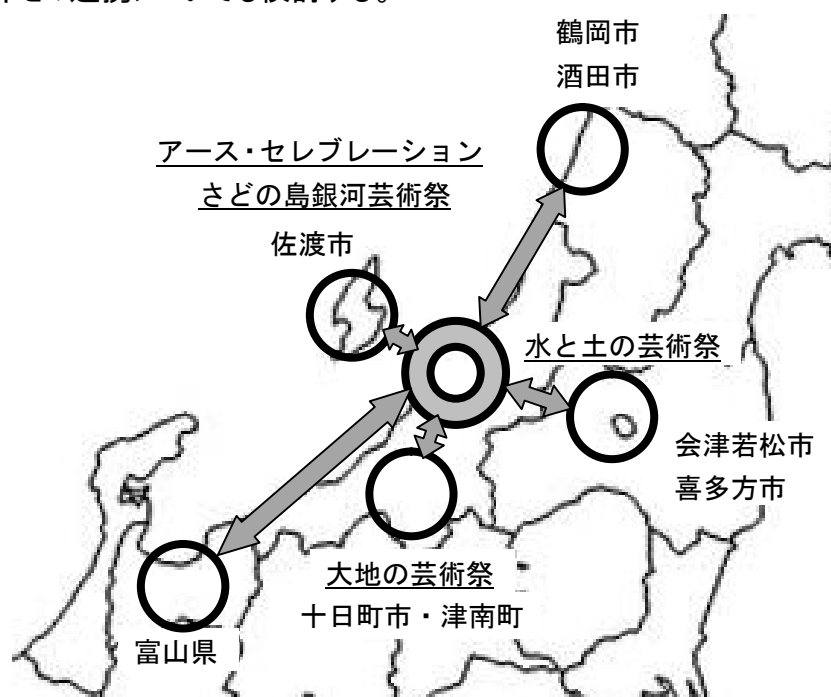
- ガイドブック等の提示による入館料等の割引
- その他、商品等の割引 など

(2) 広域連携の取り組み

佐渡市や鶴岡市、会津若松市など、既に広域観光として提携のある市町村と相互に協力し、誘客を図る。さらに、現美新幹線や日本遺産に認定された「火焰型土器等の遺産群」・「北前船寄港地の構成文化財」など、新潟県内の観光資源を最大限活用し、それらと連携することで、さらなる誘客と広域連携を促進させる。

特に、2018年に開催される第7回大地の芸術祭や佐渡市のアース・セレブレーションなどは、同時期に県内で開催される芸術祭であることから、更なる連携を図り、相互に人が行き来する仕組みづくりに取り組む。

また、東アジア文化都市や交流のある都市、姉妹都市・友好都市等、更には全国の芸術祭開催都市との連携についても検討する。



水と土の芸術祭

本体事業

市民プロジェクト

こどもプロジェクト

アートプロジェクト

シンポジウム

にいがた JIMAN

連携事業

市内連携

- ・文化施設、イベント、市民団体等の事業と連携した盛り上げ
- ・市内観光資源などを活用した国内外からの誘客

広域連携

- ・国内外の他都市との協力による誘客
- ・県内観光資源を活用した国内外からの誘客

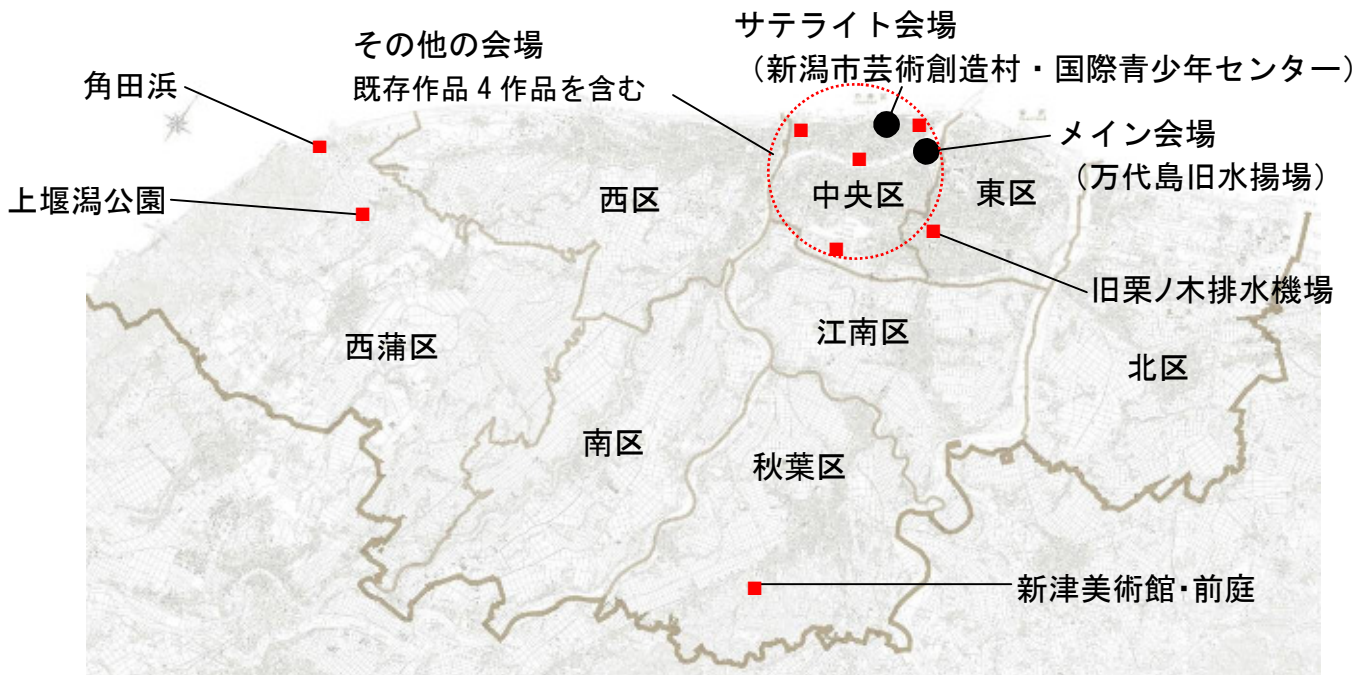
IV 空間構成と輸送・交通

1 空間構成

(1) 作品展示エリア

「港」に関連のある「万代島旧水揚場」をメイン会場とし、新潟の砂丘列の頂にある「新潟市芸術創造村・国際青少年センター」をサテライト会場とする。また、市の文化施設や既存作品設置場所において作品の展示等を展開する。

その他、市民プロジェクト及び子どもプロジェクトは各地で展開される。



(2) メイン会場・サテライト会場に持たせる機能

ア メイン会場

- 来場者向け機能
インフォメーションセンター、ショップ、多目的トイレ、授乳室、救護室
- 作品展示
作品展示(インスタレーション)、前庭内に作品展示(可能性有)
- その他
駐車場(近隣民間駐車場)、レンタサイクルステーション、ツアーバス発着場

イ サテライト会場

- 来場者向け機能
インフォメーションセンター、多目的トイレ
- 作品展示
作品展示(インスタレーション)、アーティスト・イン・レジデンスによる作品制作
- その他
駐車場、レンタサイクルステーション、ツアーバス発着場

(3) インフォメーションセンター

来訪者の利便性を向上させるため、情報発信拠点としてメイン会場にインフォメーションセンターを設置するほか、サテライト会場や「地域拠点プロジェクト」により作られる各区の拠点などにインフォメーションセンターを設置する。

2 輸送・交通

(1) 基本方針

- ア 市内外からの来場者が、円滑かつ安全に各会場までアクセス可能な輸送体制を確立する。
- イ 輸送にあたっては、環境に配慮した交通手段を有効活用する。

(2) 実施概要

ア シャトル便

メイン会場とサテライト会場間を繋ぐシャトル便を運行し、来場者の利便性を向上を図る。運行に当たっては、既存の路線バスの運行ダイヤや来場者が多く見込まれる日及び時間を考慮し効率的に実施する。

(a) 運用区間: ①メイン会場～②新潟市美術館～③サテライト会場～④砂丘館～⑤古町

(b) 料 金: 調整中

(c) 運行期間: 2018年7月13日(金)～10月8日(月・祝)のうち休館日を除く77日間
(オープニング前日の内覧会の日を含む)

(d) 使用車両: ジャンボタクシー(9人乗車)

(e) 運行時間: 以下のとおり

項目	運行日	運行時間(予定)	運行体制
通常期	7/13(金) ～ 10/8(月・祝) のうち繁忙日を除く	11:00～15:30	40分サイクル・7便/日 1台運行
繁忙日	7/14(土)～16(月)、 7/21(土)・22(日)、 9/15(土)～17(月)、 9/22(土)～24(月)	11:00～15:30	20分サイクル・13便/日 2台運行

(e) 経 路: 以下のとおり



イ 作品鑑賞バスツアー

アートの鑑賞のみではなく、新潟の「水と土」に関連したスポットや観光スポット、食や農体験など、芸術祭を多様に楽しめるツアーを催行する。

(a) 一日バスツアー

アート作品、新潟の歴史・文化を感じる名所、食の魅力を満喫できる昼食付日帰りバスツアーを6コース造成する。

(b) 半日バスツアー

来場者が郊外のアート作品や市民プロジェクトなどを気軽に楽しめるよう、半日で周遊するバスツアーを造成する。

ウ レンタサイクル・まちあるき

「みなとまち新潟」の魅力を感じるおすすめコースのマップなどを作成し、自転車や徒歩での移動を推奨する。

(3) 案内・誘導

ア 観光循環バスや路線バス、鉄道等の既存の交通手段を最大限活用できるよう、マップなどを用いて分かりやすい情報提供を行う(併せて、宿泊施設の情報を提供するなど、来場者にホスピタリティ^{*5}溢れる情報提供を行う)。

イ 作品等への誘導手段のひとつとして、市内各所に誘導看板を設置する。誘導看板は、車道の主要な交差点等に設置する運転者向けのもの、駐車場から作品等へ案内する歩行者向けのもの2種を設置する。

ウ 誘導看板は、近隣の交通状況等を勘案した上で、特に景観や自然環境、安全性に配慮したものとし、的確な誘導を行えるものとする。

エ 作品設置箇所に、作品案内板を設置する。

オ 誘導看板や作品案内板は多言語に対応するものとする。

カ 上記のほか、のぼり旗や屋外掲示物等、必要なものを適宜、許可の範囲で設置する。

^{*5} 「ホスピタリティ」→おもてなしの行動や考え方。

V 広報・誘客

1 広報

(1) 広報・誘客の基本方針

- ア 新潟開港 150 周年や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会などを見据えた、早期からの戦略的な取り組みによる広報・誘客
- イ わかりやすい「ことば」による伝達にもとづく広報・誘客
- ウ 費用対効果の高い展開による広報・誘客
- エ 海外・県外向けに強化した広報・誘客
- オ SNS^{*6}等、最新メディアを有効活用した広報・誘客

(2) 実施体制

広報業務全体を株式会社新潟博報堂に業務委託し、戦略的かつ効果的な広報推進を図る。

(3) 実施概要

ア 記者／ライターによる定期的な情報発信

- 専属記者による取材を芸術祭準備段階から開始し、サポーター、地域住民、作家等の関係者への取材により情報を集約し、文章化した上で情報を発信する。
- 定期的に、タイムリーな情報を発信していくことで、芸術祭の機運醸成に繋げる。

イ 広報全体の戦略(広報戦略)の策定

- 戦略的で効果的な広報展開を徹底する。
- 芸術祭のロゴ・シンボルについては、2015 年のものを更新して継続活用する。

ウ パブリシティ^{*7}

- 新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミや、美術・旅行雑誌、タウン誌、フリーペーパー、Web ニュースなどのメディアに、情報を掲載したプレスリリースや写真データを発信し、記事としての掲載を促す。

エ ウェブサイト

- 「水と土の文化創造都市」ウェブサイトの機能のさらなる充実を図った上で、「水と土の芸術祭 2018」のページを追加し継続利用する。
 - ・早期ウェブサイト制作、運営管理
 - ・本格ウェブサイト制作、運営管理
 - ・SNS 活用
 - ・(3)ーアと連動した情報発信



^{*6} 「SNS」→ソーシャル・ネットワーキング・サービス。フェイスブックやツイッターなど。

^{*7} 「パブリシティ」→事業などに関する情報を積極的にマスコミに提供し、マスメディアを通して報道として伝達されるよう働きかける広報活動。

オ ガイドブック

○ 制作

- ・新潟の歴史・地勢・文化(基本理念、水と土の歴史、みなとまち文化の解説等)
- ・芸術祭の内容(作品、作家紹介、イベント、出演者紹介、スケジュール等)
- ・会場へのアクセス方法(地図、交通機関、接続、主要な時刻表及び所要時間等)
- ・会場案内(会場レイアウトマップ、ステージイベント等関連イベント)
- ・食・ショップ等の案内
- ・ガイドブック特典
- ・ガイドマップ
- ・スタンプラリーシート

○ 配本

県内外の各書店に配本し、販売する。

カ 図録(記録集)

アートプロジェクトをはじめ、各プロジェクトの写真や資料、記録データも含めた記録集として芸術祭の会期終了後に編集・制作し、販売する。

キ チラシ・ポスター

○ 制作

- ・簡易チラシ
- ・早期告知チラシ
- ・本格チラシ
- ・市民プロジェクトチラシ
- ・こどもプロジェクトチラシ
- ・ポスター
- ・有料広告紙面
- ・屋外グラフィックポスター(メイン会場および関東圏に掲示)

○ 配送

全国の美術館、博物館、文化関連機関・施設、観光施設、大学及び市内の学校へ配送し、芸術祭の具体的な情報を発信する。

ク 雑誌広告

- 全国誌 3誌以上、地方誌 1誌以上
- 芸術祭開催1ヶ月前頃に掲載する。

ケ テレビCM

- テレビコマーシャル(15秒)を2種類以上作成し、新潟県内テレビ(民放4局)で放送する。
- 芸術祭会期約1ヶ月前の2018年6月初頭から会期中旬までの期間、適切な枠を調整・選定する。

コ プレゼンテーションイベント

- プレス発表会等のイベントを、具体的な広報イメージを形成し発信する機会として捉え、広報戦略の観点から企画・演出する。

- プレス発表会は 2 回以上(新潟、東京各 1 回以上)、芸術祭の情報集約完了後、効果的な時期に行う。
- 前夜祭、オープニングイベント、クロージングイベント等のイベントを広報の一環として取り扱う。

サ 屋外大型掲示物

パナー等の大型掲示物を駅や大通り等の芸術祭の開催を印象付けることのできる有効な場所に掲示する。

シ 多言語対応

海外向けの広報や誘客に向け、以下とおり多言語対応する。

- ウェブサイト: サイト内の翻訳機能で対応
- ガイドブック: 英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語対応 ※主要部分のみ
- 図録(記録集): 英語対応
- 簡易チラシ: 英語対応
- 早期告知チラシ: 英語対応
- 本格チラシ: 英語対応
- 外国語マップ: 英語・中国語(繁体字・簡体字)・韓国語対応

(4) 記録

公式カメラマン(実行委員会で契約)及び(3)ーアの記者/ライターにより、作品制作状況等の開催に至るまでの過程、展示状況を写真や映像等で記録し、実施報告書等の記録集の発行やホームページ等による情報発信に使用する。

(5) 広報スケジュール

2017 年 11 月	プレス発表会(期日:11/30 会場:新潟市美術館)、早期告知チラシ、特設ウェブサイト開設、専属ライターによる取材・情報発信
2018 年 4~5 月	プレス発表会(期日:未定 会場:東京)、本格チラシ、ポスター など
2018 年 6 月	大型グラフィックポスター、テレビ CM、雑誌広告 など
2018 年 7 月	前夜祭、オープニングイベント
2018 年 10 月	クロージングイベント
2018 年 12 月	作品記録集

2 誘客活動

(1) 国内向け誘客

- ア 旅行商品の造成に向け、旅行業者、旅行代理店に芸術祭を組み入れた旅行商品を企画・提案
- イ 市内のイベントや観光施設、食の魅力、アース・セレブレーション(佐渡市)、大地の芸術祭(十日町市・津南町)などと連携したコースを開発
- ウ 新潟観光コンベンション協会等と連携した旅行業者等へのセールス
- エ 周辺観光施設・宿泊施設等とタイアップし、市内の観光資源の活用も促進する。
- オ 美術系大学や美術関係団体、新潟市サポーターズ倶楽部、新潟県人会、首都圏の団体や事業所などへの誘客

カ 各種コンベンションや新潟まつり、日本海夕日コンサート、にいがた総おどり、食の陣などのイベント参加者や期間中に新潟市を訪れる宿泊者、ビジネス客等の獲得

(2) 海外向け誘客

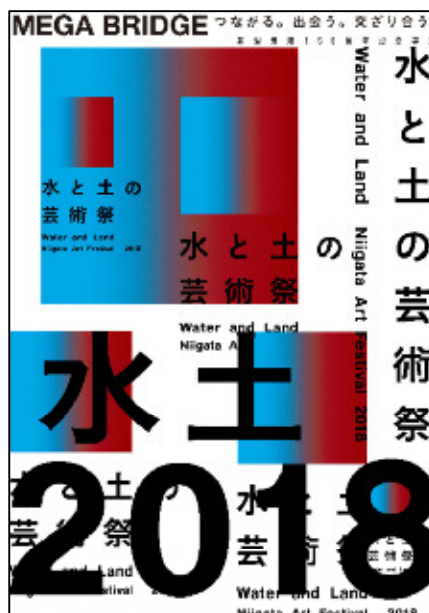
ア 国が実施する「訪日プロモーションにおける地方連携事業」(旧:ビジットジャパンキャンペーン)を活用し、主に東アジアからの海外誘客を目指す。

イ 新潟観光コンベンション協会等と連携した旅行業者等へのセールス



水と土の芸術祭 2018 事業発表記者会見

撮影:中村脩



水と土の芸術祭 2018 早期告知チラシ

VI 観覧料等

1 パスポート・単館チケットの販売

芸術祭の作品観覧者と一般利用者が明確に区別できる屋内会場を対象に、アートプロジェクトの一部を有料観覧とする。芸術祭の有料観覧会場全てを観覧できるパスポートを販売するとともに、会場ごとに観覧できる単館チケットも販売する。料金設定については、多くの方から来場いただくため、観覧しやすい料金設定にし、中学生以下の方と障がい者の方等の観覧料は無料、高齢者・学生を低廉な価格とする。

(1) 観覧料を徴収する会場

- 万代島旧水揚場跡地(屋内会場)
- NSG 美術館
- 天寿園(屋内会場)

(2) 観覧料

(単位:円)

種類	区分	一般	学生*1・高齢者*2
パスポート	当日	1,500	1,000
	前売	1,200	800
単館チケット	万代島旧水揚場跡地(屋内会場)	1,000	700
	NSG 美術館	700	500
	天寿園(屋内会場)	300	200

以下に該当する場合は無料でパスポートを配布する。

- 中学生以下
- 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかを提示した方及びその介助者 1 名

※1 学生:高校生、大学生、短大生、大学院生、専門学校生

※2 高齢者:65 歳以上

(3) 販売方法

メイン会場やサテライト会場等に設置するインフォメーションセンターや、各種プレイガイド、市内店舗などで販売する。

2 ガイドブックの販売

ガイドブックは、芸術祭の各プロジェクト、新潟の地勢的な成立ち、おすすめの芸術祭周遊コースなどを盛り込むほか、スタンプラリーや文化施設等の入館料割引や飲食店での料金割引等のサービス特典付けて販売する。

仕様	販売期間	価格	制作部数	販売方法
A5 版/カラー ※ページ数調整中	調整中	1,000 円 (税込)	10,000 部	インフォメーション 公式ショップ 県内外の書店 等

VII 実施・運営体制

(1) 基本方針

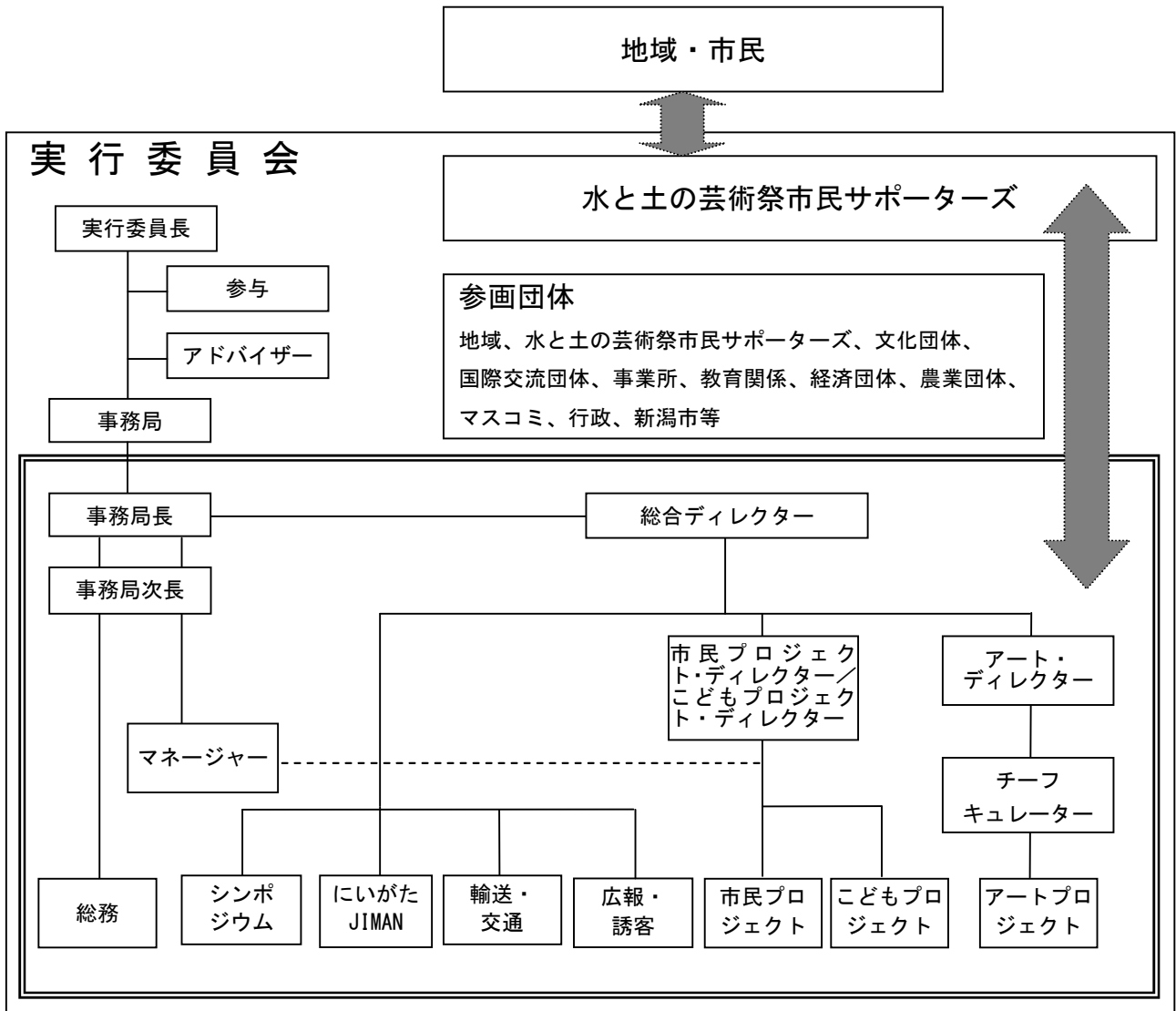
市民主体・地域主導の芸術祭とするため市民の皆様をはじめ、市議会、自治協議会、コミュニティ協議会等からご意見をいただきながら事業を実施する。

(2) 組織

- ・様々な機関・団体から参画いただき、実行委員会を組織する。
- ・実行委員会には、参与、アドバイザー、総合ディレクター、ディレクターを置く。
- ・事務局は、新潟市文化創造推進課が担う。総合ディレクターの監督のもと、個々の事業の連携を図る。
- ・区役所との連携を密にし、各種情報提供や協力依頼を行う。

(3) 水と土の芸術祭市民サポーターズとの連携

水と土の芸術祭市民サポーターズの企画・運営等への参画が重要であることから、事業を進めるにあたり、強力に連携する。



水と土の芸術祭 2018 実行委員会 会則

(名称)

第1条 本会は、水と土の芸術祭 2018 実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、水と土の芸術祭 2018（以下「芸術祭」という。）を円滑に開催するために必要な事項を審議し、実行し総括することを目的とする。

(事業)

第3条 実行委員会は、第2条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 芸術祭の開催及びこれに関する事業
- (2) その他、第2条に掲げる目的を達成するために必要な事業

(組織)

第4条 実行委員会は、別表の団体等をもって構成する。

(役員)

第5条 実行委員会には、次の各号に掲げる役員を置く。

- (1) 実行委員長 1名
- (2) 副実行委員長 若干名
- (3) 監事 2名

(役員を選任)

第6条 役員は、実行委員会の中から互選により選任する。

2 監事は、実行委員会の外部から選任できるものとする。

(役員職務)

第7条 実行委員長は、実行委員会を代表し、会務を統括する。

2 副実行委員長は、実行委員長を補佐し、実行委員長が不在のときは、その職務を代行する。

3 監事は、会計及び業務を監査する。

(会議)

第8条 実行委員会の会議（以下「会議」という。）は、実行委員長が招集し、議長となる。

2 会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 会則の制定及び改廃に関すること。
- (2) 芸術祭の計画及び運営に関すること。
- (3) その他重要な事項に関すること。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 実行委員長は、必要があると認められるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(参与)

第9条 実行委員会に参与を置くことができる。

2 参与は、芸術祭の基本的な方向性を導引する。

3 参与は、実行委員長が委嘱する。

(総合ディレクター)

第10条 実行委員会に総合ディレクターを置くことができる。

2 総合ディレクターは、次条に掲げるディレクターを統括する。

3 総合ディレクターは、実行委員長が委嘱する。

(ディレクター)

第11条 実行委員会にディレクターを置くことができる。

- 2 ディレクターは、総合ディレクターの指示に従い、専門的知識を活かし、担当する部門の企画・運営を指導・推進する。
- 3 ディレクターは、実行委員長が委嘱する。

(アドバイザー)

第12条 実行委員会にはアドバイザーを置くことができる。

- 2 アドバイザーは、実行委員長の求めに応じ、実行委員会に対して助言を行う。
- 3 アドバイザーは、実行委員長が委嘱する。

(部会)

第13条 実行委員会に部会を置くことができる。

- 2 部会は、それぞれの専門分野等において、事業を推進するものとする。
- 3 前2項に定めるもののほか、部会に関して必要な事項は、実行委員長が定める。

(専決処分)

第14条 実行委員長は、第8条第2項に掲げる事項について、緊急を要するときは、これを専決処分することができるものとする。

- 2 実行委員長は、第1項の規定により専決処分したときには、次の会議でこれを報告しなければならない。

(解散)

第15条 実行委員会は、その決議により解散することができる。

- 2 実行委員会が解散するとき有する残余財産は、新潟市に帰属するものとする。

(事務局)

第16条 実行委員会の事務を処理するため、新潟市文化スポーツ部文化創造推進課内に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置く。
- 3 前2項に定めるもののほか、事務局に関して必要な事項は、実行委員長が定める。

(会計)

第17条 実行委員会の経費は、負担金、寄附・協賛金、その他の収入をもって、これに充てる。

(会計年度)

第18条 実行委員会の会計年度は、初年度は実行委員会設立の日から平成29年3月31日までとし、次年度以降、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(その他)

第19条 この会則に定めるもののほか、必要な事項については実行委員長がこれを定める。

附 則

この会則は、平成29年1月26日から施行する。

水と土の芸術祭2018実行委員会 構成団体等一覧

区分	団体等名称	区分	団体等名称	
市民・地域	水と土の芸術祭市民サポーターズ	交通関係	東日本旅客鉄道(株)新潟支社	
	北区		新潟交通(株)	
	東区		学校・教育関係	新潟大学
	中央区	新潟市小学校長会		
	江南区	新潟市中学校長会		
	秋葉区	はばたけ21の会		
	南区	各種団体		(一社)日本旅行業協会関東支部 新潟県地区委員会
	西区			(一社)日本ホテル協会信越支部会 新潟市協議会
	西蒲区		新潟市旅館ホテル協同組合	
新潟市漆器同業組合				
農業団体	新潟県土地改良事業団体連合会	(公社)新潟県観光協会		
	亀田郷土地改良区	(公財)新潟観光コンベンション協会		
	西蒲原土地改良区	(公財)新潟市芸術文化振興財団		
	白根郷土地改良区	(公財)新潟市国際交流協会		
	新津郷土地改良区	にいがた食の陣実行委員会		
	新潟県農業協同組合中央会	NPO法人まちづくり学校		
	全国農業協同組合連合会新潟県本部	NPO法人新潟水辺の会		
	新潟みらい農業協同組合	認定NPO法人新潟NPO協会		
	新潟市農業協同組合	アートキャンプ新潟		
	新津さつき農業協同組合	新潟市食文化創造都市推進会議		
	越後中央農業協同組合	志民委員会 N・Visionプロジェクト		
	水産団体	新潟漁業協同組合		
商工・経済団体	新潟商工会議所	マスコミ	(株)新潟日报社	
	亀田商工会議所	行政機関	農林水産省北陸農政局	
	新津商工会議所		国土交通省北陸信越運輸局	
	新潟県商工会連合会		国土交通省北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所	
	新潟経済同友会		国土交通省北陸地方整備局 阿賀野川河川事務所	
	新潟市商店街連盟		国土交通省北陸地方整備局 新潟国道事務所	
	(一社)新潟青年会議所		国土交通省北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所	
	(一社)新津青年会議所		新潟県新潟地域振興局	
	(一社)白根青年会議所		新潟市	
	(一社)にいがた北青年会議所		新潟市教育委員会	

計 62 団体等

VIII スケジュール

	2017年 1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	2018年 1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	2019年 1月～
全体	基本計画作成	実施計画作成				芸術祭開催			
		市民意見聴取		市民意見聴取					
	開催準備								
	設立 総会	実行委員会による事業推進							実績報告／総括
					パスポート・ガイドブック販売				
市民プロジェクト				公募／審査			実施		
アートプロジェクト	作品展示候補地調査	作家交渉／準備		準備	作品制作		作品展示		
子どもプロジェクト		コーディネーター組織化		実施準備			実施		
シンポジウム		内容・出演者等の調整／プレシンポジウム					実施		
にいがたJIMAN		企画・調整・準備					実施		
広報		ホームページによる情報発信							
			事業周知宣伝(プレスリリース等)						
		早々期広報	印刷物・各種メディアによるPR						
			誘客・セールス						
								記録集作成	

IX 収支計画

※2018/2/2 現在

【 収 入 】

(単位：千円)

区 分	平成 28 年度 決算	平成 29 年度 予算	平成 30 年度 予算	合 計
新潟市負担金	8,000	30,000	185,000	223,000
寄附・協賛金	0	0	8,000	8,000
助成金	0	0	1,500	1,500
各種販売収入	0	0	37,000	37,000
その他	0	0	500	500
合 計	8,000	30,000	232,000	270,000
前年度繰越金	0	7,933	0	7,933
翌年度繰越金	▲7,933	0	0	▲7,933
繰越後合計	67	37,933	232,000	270,000

【 支 出 】

(単位：千円)

区 分	平成 28 年度 決算	平成 29 年度 予算	平成 30 年度 予算	合 計
市民プロジェクト	0	610	44,390	45,000
こどもプロジェクト	0	170	6,830	7,000
アートプロジェクト	0	0	85,000	85,000
シンポジウム	0	413	1,587	2,000
にいがた JIMAN	0	0	16,000	16,000
主催イベント	0	0	3,000	3,000
広報費	0	9,920	52,080	62,000
運営活動費	67	26,820	23,113	50,000
合 計	67	37,933	232,000	270,000



水と土の
芸術祭

Water and Land
Niigata Art Festival 2018